

中学校国語科指導法研究会グループ研究会

| | | | |
|-------------|-----------|--------|---------|
| グループ員：仲上 寛紀 | (天王寺川中学校) | 伊藤 秀子 | (東中学校) |
| 河野 智文 | (西中学校) | 新立 隼也 | (西中学校) |
| 有木 里奈 | (西中学校) | 朝井 満理奈 | (北中学校) |
| 竹内 祐子 | (北中学校) | 阪田 彩香 | (北中学校) |
| 菅 彩幸 | (北中学校) | 廣 一登 | (松崎中学校) |
| 能登 まゆ子 | (松崎中学校) | 松井 由希 | (松崎中学校) |
| 山岡 永美 | (笹原中学校) | 窪田 えみか | (笹原中学校) |
| 小林 滉大 | (笹原中学校) | | |

担当指導主事：八束 伸明

キーワード：授業力向上 書くこと 評価基準 生徒観 めあて

1 研究テーマ

「国語の授業力向上についての研究」

2 研究内容

(1) 授業力向上のための討議

個々の教師が行う日々の授業づくりにおいて、困っていることや実践する中で上手くいかないことなどを振り返り、それぞれが抱えている課題を共有し、個々の授業力向上に向けて研究を行った。

① 指導案の検討

グループ研究員が初任者の時に実践した「さんちき」の指導案をもとに、最後の発問に対する生徒の解答をどのように評価するかを考え、討議を行った。

② 書くことについて

「書く力」を生徒につけさせるために、各校の現状を共有し、書く力を伸ばす有効な手立てについて話し合った。

(2) 授業力向上のための実践交流

各校で実践した指導案をもとにして、授業者が実際に授業をした感想や良かった点、改善点などを発表した。そして、グループでの協議を通して、今後、各校で取り組める実践や視点を持ち帰り、授業力向上に役立てた。また、参加者の指導案を持ち帰り、今後の参考にした。



3 成果と課題

(1) 成果

- ① 経験年数の長い教員や指導主事から授業作りや考え方についてのアドバイスを受けることで、今までになかった発想や授業作りの進め方を学ぶことができた。
- ② 同じ市内の教員同士が学校の壁を越え、交流することにより、国語教師としてのスキルアップを目指して、情報交流や関係づくりをすることができた。

(2) 課題

- ① 多くの教員が参加できるよう、研修回数を確保する必要がある。
- ② 参加者が身につけたいスキルや知りたい情報等、ニーズに応じた研修にする必要がある。